

国別調査 ドイツ班

——生活と産業——

発表者 田中彩佳 添田鈴香
藤田朱夏 立川紗弥

目次

- 1、ドイツの基本情報
- 2、日本とドイツの関係・比較
- 3、ドイツの教育状況
- 4、ドイツの産業
- 5、まとめ
- 6、参考文献

問題意識・研究目的

2017年の国別日系企業数の調査によると、ドイツには1814の日系企業が進出しておりヨーロッパのなかで最も多くの日本企業が拠点を構えている。海外でビジネス活動を行うには、現地の治安状況や生活環境などの正確な把握が重要となっている。

そこで、我々はドイツの情報を調査し、ドイツへの企業進出が多い理由について検討してみた。

内容

- ・銃の所持や薬物と聞くと怖い印象や治安が悪いのではないかと感じるが、日本と比べると多少の危険が多いだけで、世界的にみるとそこまで治安が悪いわけではない。
- ・税率は高いが、食費は安いので生活するにあたっての食の部分は安心できると考える。

・ドイツの教育制度を調査し、日本との比較を行った。

・充実した制度の裏側にはどのような仕組みがあるのか調査した。

・ドイツは世界有数の経済大国であり、自動車、電気・機械、化学産業を中心とした製造業の各分野において高い技術力を保有する企業が多く存在している。自動車産業は特にドイツ全体の経済において重要な産業であると言える。ドイツの自動車輸出は増加傾向にあり、電気自動車の新規登録数も増加している。

結論

ドイツは中国、アメリカに次ぐ世界第3位の輸出大国である。海外企業にとってドイツが世界的にも魅力的な投資先である。

ドイツはヨーロッパ経済の牽引役を担っている。世界第4位の経済国ドイツの景気動向は、ドイツに進出する企業に大きな利益をもたらす。

ドイツは投資企業に対し、様々な魅力的なインセンティブを打ち出している。大幅な税制の改革によって、法人税や諸費用が大きく緩和された。

ドイツ連邦政府の多岐にわたる一般税制改善と労働コスト抑制のためのリフォームは、これまで以上のビジネスチャンスを進出企業へもたらす。